

第3次大阪府食育推進計画の 方向性について

生活習慣病予防について

平成28年度
第1回 第3次大阪府食育
推進計画検討部会 資料

<府2次計画の評価>

- ・ 栄養バランス等に配慮した食生活を送っている府民の割合【B】
- ・ メタボ予防や改善のための適切な食事や運動をしている府民の割合【C】
- ・ 食の安全性に関する基礎的な知識の普及【A】

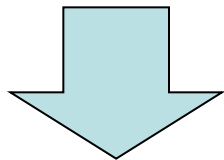
健康的な食生活を送る
府民をさらに増やすことが
課題

<府の現状と課題>

※府：平成25年大阪府民の健康・栄養状況

※国：平成25年国民健康・栄養調査

- ・ 健康寿命 男性69.39歳【全国44位】女性72.55歳【全国45位】
- ・ 糖尿病が強く疑われる者の割合※
男性20.2%（全国15.5%）女性9.0%（全国9.8%）
- ・ 肥満者の割合※ 男性29.7%（全国28.7%）女性19.3%（全国21.3%）
- ・ 野菜摂取量※ 249.2g（全国271.3g）



国第3次計画の重点課題

健康寿命の延伸につながる食育の推進

健康寿命の延伸につながる推進が必要

重点対象となる世代について

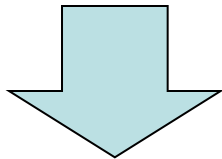
<府 2 次計画の評価>

- ・朝食欠食率（7～14歳）【A】
- ・朝食欠食率（高校生・大学生）【C】
- ・野菜摂取量（7～14歳）【C】
- ・野菜摂取量（高校生・大学生）【C】
- ・「食に関する指導」の推進体制が整備されている小・中学校の割合【B】

学校での食育環境は
整ったが
朝食・野菜摂取ともに
目標には達していない

<府の現状と課題> ※平成27年大阪府健康・栄養調査結果より

- ・メタボ予防のために適切な食事をしている
18.3%（18～29歳） 22.2%（30歳代） 28.2%（40～64歳）
- ・朝食をほとんど食べない
22.6%（18～29歳） 18.4%（30歳代） 14.8%（40～64歳）



国第3次計画の重点課題

若い世代を中心とした食育の推進

子どもから若年期に重点をおいた推進が必要

歯と口の健康づくりについて

<府2次計画の評価>

- ・よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心がある府民【B】

むし歯のある子どもや
歯周病の治療が必要な
大人を減らすことが
課題

<府の現状と課題>

- ・よく噛んで食べることに気をつけている

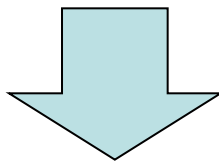
(平成27年大阪版健康・栄養調査)

11.8% (18~29歳) 8.7% (30歳代)

12.3% (40~64歳) 27.4% (65歳~)

- ・何でも噛んで食べることができる (平成25年国民健康・栄養調査)

府70歳以上 **60.2%** (全国70歳以上 62.9%)



国第3次計画の重点課題

健康寿命の延伸につながる食育の推進

生涯を通じた歯と口の健康づくりと連携した推進が必要₄

活力ある都市型農林水産業等の振興

<府2次計画の評価>

- ・大阪産（もん）認知度の向上による地産地消推進【C】

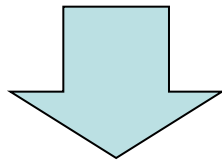
地産地消のさらなる
推進が課題

<大阪府の現状と課題> 平成28年お口の健康と食育に関するアンケート速報値

- ・伝統的な料理や作法などを伝えている府民の割合
21.9%（全国41.6%）

参考：カロリーベース食料自給率 平成26年 39%（昭和40年 73%）

（農林水産省 食料需給表）



地産地消の推進が必要

総合的な推進について

＜府 2 次計画の評価＞

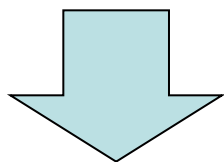
- ・食育に関心を持っている府民の割合【B】
- ・朝食又は夕食を家族と共食【A】
- ・食育推進ボランティアの人数【A】

自ら継続的に健全な
食生活を実践できる府民を
増やすことが課題

＜大阪府の現状と課題＞

※平成27年大阪版健康・栄養調査結果

- ・食育への関心※ 56.8%（全国75.0% 平成27年10月内閣府調査）
- ・同居者との共食※ 朝食47.5% 夕食66.0%
- ・地域や職場で共食したい人が共食している※ 77.6%
（全国64.6% 第3次国計画 現状値）
- ・おおさか食育通信アクセス数 4234（平成27年2月）4357（平成28年2月）



国第3次計画の重点課題

多様な暮らしに対応した食育の推進

府民運動としての推進や
ネットワークを活用した推進が必要

府第3次食育推進計画の取組方針について（案）

- 健康寿命の延伸につながる推進
- 子どもから若年期に重点をおいた推進
- 生涯を通じた歯と口の健康づくりと連携した推進
- 地産地消の推進
- 府民運動としての推進
- ネットワークを活用した推進

目標値の設定の考え方（主なもの）

- ある程度の母数が確保でき、毎年数値が把握できる統計を基本とする

例：国民健康・栄養調査 など

- 行動レベルでの実践状況を把握できる数値

例：朝食をほとんど毎日食べる など

- 身体状況として表す数値

例：BMI、糖尿病が強く疑われる者の割合 など

- 食生活状況として表す数値

例：野菜摂取量 など